

第1回生駒市総合計画審議会全体会

開催日時 平成27年6月22日(月) 19:00～

開催場所 生駒市役所 4階 403・404会議室

出席者

(委員) 中川委員、久委員、森岡委員、永野委員、大原委員、楠下委員、幸元委員
梶井委員、中谷委員、中山委員、村上委員

(事務局) 小紫市長、今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課課長補佐
岡村企画係長、松尾企画係員

欠席者 加藤委員

議事内容

1 開会

2 委員紹介(名簿順に紹介)

3 会長選出及び会長代理の指名

事務局: 会長の選出について、ご意見等ございますか。

大原委員: 中川先生にお願いしてはどうか。

(異議なし)

事務局: 中川委員、お引き受けいただけますでしょうか。

中川委員: はい。

事務局: それでは、会長に中川委員にご就任いただくこととさせていただきます。
引き続き、会長代理の指名を中川会長からお願いします。

中川会長: 前と同じようにしていただけるのであれば大いに私はうれしいので、久先生にお願いできたらと思う。よろしくお願いします。いかがでしょう。

久委員: はい。

事務局: それでは、会長代理に久委員にご就任いただくこととさせていただきます。

事務局: それでは、中川会長、恐れ入りますが一言ご挨拶お願いいたします。

中川会長: 新しく委員になられた方もいらっしゃるなので、新しく、私も初心に戻って
議事進行に努めたいと思う。どうかよろしくご協力のほどお願いいたします。

4 諮問（市長から会長へ諮問書を手渡す）

5 市長挨拶

小紫市長： 大変遅い時間帯に、またお忙しいところ、今日は総合計画審議会にお集まりいただきして、本当にありがとうございます。また、引き続き会長を引き受けていただきます中川先生、そして、代理の久先生初め、皆様には感謝を申し上げます。

市長に就任してもうすぐ2カ月になる。以前この生駒市総合計画後期基本計画の策定に向けご尽力いただいた方も両先生ほかいらっしゃると思うが、直後に市長選があり、後期基本計画にマニフェストを反映することとなり改めてお手をかけなければいけない点について大変心苦しく思っている。

しかしながら、マニフェストをきちんと総合計画の中に位置づけて、同時に総合計画の進捗について様々なご意見をいただいて総合計画の中に盛り込んでいくときに、マニフェストに対してもあらゆる角度からご意見をいただきつつ総合計画の中に確実に載せていくということは非常に意義のあることであるため、心苦しいながらもまたこの審議会でご議論・ご審議をいただきたい。

総合計画の中に位置づけて進行管理をするということもマニフェストの1つとして挙げていたので、その進行管理も合わせてぜひお願いしたいと思う。選挙期間中にいろいろと自分なりに知恵を絞って選挙期間中訴えてきたマニフェストなので我が子のようにかわいいマニフェストであり、職員とともにヒアリング等を実施しているが、さまざまな角度からご審議いただきしっかりと生駒市民のためになるような形で総合計画の中に位置づけていただければありがたいと思っている。

6. 案件

（1）会議の公開について

中川会長： 会議の公開について、事務局より説明願います。

事務局： 資料3のとおり公開としてよろしいですか。

（異議なし）

（2）諮問事項について

①総合計画のあり方について

事務局： （資料４、資料５、資料６について説明）

中川会長： 説明にあったように、計画期間を平成３０年度まで１年先にずらすという形になる。現在、既に後期基本計画における２６年度は終わっているが、３０年度までの１年をさらに増し延ばしをして改正後期基本計画を作りたい、ということである。

それから、市長マニフェストを反映する方法については、１１２個のマニフェストの該当案件を計画の中にどのように溶かし込むことができるか、加筆・修正の必要があるかどうか、行政内部で一旦持ち帰って点検してもらう。次回の第２回全体会ではそれを我々委員が見させていただくことになり、マニフェストを計画に溶かし込む作業を委員が直接やるわけではない。ゆえに、この諮問事項１に関しては、計画期間の１年延長をすることについてだけご審議いただくことになるだろう。何かご意見ございますか。

（異議なし）

事務局： 一つ補足を。総合計画が変更になるときも議会の議決を得ることになるが、その前に市議会に総合計画変更作業に着手するという報告をした。その際、計画期間につきまして、今年度は策定期間であるため、２８年度から３１年度までの４年間にしてはどうかというご意見もいただいた。しかし、第５次生駒市総合計画の期間がまず３０年度までということと、そして、現在は３１年度に行う予定である検証が３２年度に入ってからになってしまうので、市長の任期も平成３０年４月までということもあり、平成３０年度までの１年間の計画期間延長を事務局案として示させていただいているので、その部分も踏まえてご審議いただきたい。

中川会長： 平成３０年度が当初の一番基本となる基本構想部分の議会議決を得た期間でそれを２つに割って前期と後期に分けるという一般的技法だが、このたび前市長が１年で交代したため、その分を平成２７、２８、２９、３０年までの後期計画にするというのが事務局説明である。しかしながら、計画実施期間が２８年、２９年、３０年の僅か３年になってしまうため、議会のほうで「２７年は修正期間だが確定期間ではないので、計画実施期間を３１年まで

延長してはどうか」という意見が出たが、事務局としては30年までの計画で完了したいという提案である。

もし31年にするのならば、基本構想も含めて議決をとる必要があるだろう。

事務局：　そうですね。どうしてもその期間と進行管理がずれるため、計画期間案である平成30年度にしても、市長の任期中に進行管理が完全には終わらない。それをなおかつもう1年ずらすというのは、最終形自体が見えなくなってしまうのではないかと思う。

中川会長：　事務局提案は、計画期間を1年延長して平成30年度までの向こう足かけ4年間の改正後期基本計画としたいと。これでよろしいでしょうか。

(異議なし)

②後期基本計画の進行管理について

事務局：　(資料7、資料8、資料9、資料10、資料11、資料12について説明)

中川会長：　まず、後期基本計画の進行管理についてだが、次の第2回全体会までの間に3部会に分かれ、それぞれ合計3回の部会委員会をする。第1回と第2回の各部会では、従来の後期基本計画の進行評価を行う。第3回目の各部会で、市長マニフェストを溶かし込んだ総合計画案について、部会ごとに、計画案にマニフェストがどのように溶け込んでいるのか、これでかまわないかといったことを審議する。

それから、進行管理検証シートや市民満足度調査票などのさまざまな資料は、実はそれほど難しくない。システム的にはほとんど整理されてきており、分かりやすくなっている。ただ、その裏づけとなるデータを市民側の実感度調査から得られる部分と、行政の客観的な達成度と両方から攻めるようになっている。評価の指標と言うのは難しいところがあり、「仕事をこれだけ頑張ったからこれだけできています」と言える「アウトプット評価」と、そうでない「アウトカム評価」がある。それらについては今後も研究していく必要があるが、かなり改善されてきた。ゆえに、出てきたデータをもとにかなりシャープに消化できると思う。

その上で審議会として、たとえば行政の全体評価がBとなっていたときに

「アウトプットでは確かにB評価だが、達成成果を鑑みるとBとは言えないのではないか」といった評価が一部ある。それらを議論するのがいわゆる各部会の役割である。

では、何かご質問ございますか。

森岡委員： 進行管理検証シートの中に、「行政の4年間の主な取組」というものがあるが、初めての方はこれだけではよく分からないのではないかと。以前の進行管理検証シートは、行政の4年間の主な取組以外にも、担当課が抱えている課題が網羅されていた。行政がやっている取組は、自分たちがこれを行っている、あれをやっているという話だが、それだけでは評価しにくい部分もあり、市民目線から見れば「なぜこれをやってくれないのか」あるいは「なぜこれが載っていないのか」と感じると思う。

そういった市民のニーズや疑問をどのように処理していくのか改めて簡単に説明してもらえたらありがたい。

事務局： 今回の後期基本計画進行管理検証シートでは、行政内部でどのような事業を行っているかという一覧表を作り、「この取組について、行政はこういう事業をやっていますよ」というのをひもづけしている。大きな変更はないものの、以前の前期基本計画進行管理検証シートでは、取組だけが記載してあり、事業と取組とを関連付けていなかった。後期基本計画を作成した際、取組とその具体的な行政がやる事業というのをひもづけすることになった。各項目がどの目指す「4年後のまち」の姿に対応しているかを明確にするため、取組や事業等の文頭に「4年後のまち」の番号を付番した。「4年後のまち」の①を実現するために、取組①1に対して事業①1を行政がやりますよ、というようにひもづけした。

ゆえに、今回の後期基本計画からは、このようなひもづけ作業が計画に書かれているので、ある取組に対して実施した事業について進行管理検証シートの方に列挙および記載した。「行政として去年1年間どのようなことをどこまでやったか」を記述することで、計画とまさに同じものを進行管理検証シートで評価可能な形にするため、今回は計画に沿った形で進行管理検証シートを作成する。

事務局： 資料8「進行管理検証シート」の4枚目「行政の4年間の主な取組」具体

的な事業まで、第5次総合計画後期基本計画でもう決まっている。ですから、例えば資料8「進行管理検証シート」4枚目の①1「市民アンケートやタウンミーティングなどにより、市民の意見を聞きながらまちづくりを進めます」という行政の4年間の主な取組に対する「市民アンケート」や「タウンミーティング」という具体的な事業は、総合計画後期基本計画の冊子76ページにおける「行政の4年間の主な取組」に表記されているものをそのまま進行管理検証シートの「行政の4年間の主な取組」とした。冊子77ページにおける「具体的な事業」の①1「市民アンケートの実施」および「タウンミーティングの開催」についても、総合計画中に既に盛り込まれている事業を進行管理検証シートの「具体的な事業」とし、取組状況や進捗上の課題を出すようにしている。

森岡委員がおっしゃっているのは、「4年間の主な取組あるいは具体的な事業で、ここに上がってきている以外の事業が必要なのではないか」というご指摘か。検証としては、後期基本計画に従来あるものをそのまま進捗度を見るという形でやっている。

森岡委員： 進行管理検証シートの行政の4年間の主な取組のみを見て、進行管理や評価をすればいいのだろうか。先ほど述べたように、市民目線で見ただけに素直な疑問があったとき、進行管理検証シートに書かれている行政がやっているものに対してだけ評価を下すのか、疑問に思った分について質問し、書かれていない部分も含めて評価していいのか。

事務局： その部分は審議会の中での議論もあるだろうが、審議会中での行政の主な取組の検証というのは、既に後期基本計画で上がっている行政の4年間の主な取組および具体的な事業から検証していただきたい。もし「このような取組や具体的な事業も必要なのではないか」といった意見があれば、総合計画審議会の意見としてご意見いただくというスタイルを事務局は考えている。

久委員： 我々総合計画審議会委員の役割の一番ポイントは、資料10「総合計画進行管理検証シート 進捗度記入表」を用いて進捗度を部会で集約し、最終的に全体会で各分野の進捗度をまとめ上げることであり、目指す「4年後のまち」の姿にどこまで近づいているかを評価することである。評価のために使用する様々なデータや資料に基づいて、自分の実感も踏まえて考えたときに、

この4年後のまちに近づいているかどうかという評価をする。森岡委員がおっしゃっているのは、資料だけでは読み解けない自分の実感との乖離のようなものがあって、それはこういう事業をやってないからじゃないかという話だと思う。

その場合は「この事業をやっているのかどうか、どれだけ進んでいるのか」という点も踏まえ、評価をしたい」という話を質問票に書いていただいて、その事業実施の有無や進捗度についての返答を事務局からもらうこともできるので疑問も解け、その事業実施の有無や進捗度を加味しつつ検証を行えば評価の角度のようなものも更に上がってくるのではないかと。質問と回答といったやりとりをしてもらえればと思う。

事務局： 質問をいただいて、回答できる分は回答したいと思う。

中川会長： そんなに難しく考えず、分からないから教えてよということなので答えられるものはどんどん答えてください。

事務局： 前回の計画までは、数字や指標が何点でどのくらいの達成度なのか細かく記載されていたが、今度の計画は各項目を総合的に見ているため数字で割り切れるようになっていない。なので、「このような事業はどうか」や「こういうところに力を入れてはどうか」等いろいろご意見をいただいております。お答えすることができるとは思う。なおかつ、「このようなことはやってないのか」等のご意見があれば、「審議会の意見」をまとめる際に協議していただけると、担当課等の方でも取組むかどうか検討できるだろう。

中川会長： ほかに質問はございますか。

(質問なし)

中川会長： それでは、今日は初めての委員さんもおられるので、今後の審議会に臨む抱負や自己紹介をした方がいいのではないだろうか。お一人ずつ感想なりご挨拶をお願いします。

村上委員： 生駒市に引っ越してまだ5年だが、自分の元いた市との比較という感じで生駒市を見、今までの子育て経験等も踏まえつつ、皆さん方のご意見を伺いたいと思っている。どうぞよろしく願いいたします。

中谷委員： どのような審議会の進め方なのか、まだ少し分からないこともある。自分が一番若い年齢だと思うが、若人の目線から質問等をしてみたいと思うので、

よろしく申し上げます。

中山委員： 「生駒のことを知りたいな」と思い応募したら選んでいただいたので、これから勉強していきたいと思っている。

梶井委員： 生駒市生涯学習推進連絡会から来ています梶井憲子です。今年で4年目になるが、また引き続き、子育て・福祉の分野で頑張りたいと思う。よろしく申し上げます。

幸元委員： 民生・児童委員連合会の幸元です。昨年度からの参加だが、一生懸命生駒のことを見ていきたい。よろしくお願ひいたします。

楠下委員： 生駒市の環境基本計画推進会議の楠下と申します。「生駒の環境を何とかよくしていきたい」、あるいは、「いい宝物を見つけていきたい」とか、そういった市民・事業者・行政の協働で推進しようということでやってまいりました。最近環境モデル都市に認定されるなど、少しずつ生駒市の方向性が変わってきたのかということを感じている。今後ともよろしく申し上げます。

大原委員： 生駒商工会議所の大原です。生駒というところは住むにはよいまちだと思う。しかし、市民にアンケート調査をしても、商工業が弱いまち等、何かいつも責められているのかなと思ひながら、やはり市民の力でしかできないような仕事はさせてもらってるので、またご意見を聞かせてもらひながら、一緒にやらせてもらひたい。

永野委員： 生駒市赤十字奉仕団でやらせていただひております。前回は参加したが、この資料の多さに目がくらむばかりで、今回も一生懸命目を通してきたものの説明についていくのが必死だった。なので、資料を一生懸命読んで頑張りたい。よろしく申し上げます。

森岡委員： 生駒市には、5つの地区の自治連合会がある。その中のひとつである中地区自治連合会は、生駒駅・東生駒駅周辺の26の自治会で構成されておひ、私は中地区自治連合会会長を務めている森岡と申します。よろしくお願ひいたします。

久委員： 近畿大学の久でございます。今日は午前中もみどり景観課の景観まちづくり相談というのをしておひ、昼間、大学で授業と会議の後に、夜、ここに来ている。日曜日は、都市計画課が行っている生駒市のまちづくりを考えるワークショップをさせていただひている。たまたま今週は金曜から土曜に、近

畿の環境団体が集まって結成されたNPO「エコネット近畿」の年に1回の団体交流会を生駒山麓公園にて1泊2日で行う。準生駒市民のような立場でさまざまところで皆さんと一緒に活動しているので、そういう目でも今回評価に加わらせていただければと思う。よろしくお願いします。

中川会長： ご縁でこの総合計画審議会に関わらせてもらい、前期のときからも関係があった。何か悪戦苦闘しながらよくここまで来たなと思う。新しく委員になった方々も、参加しているうちに慣れるので余り心配せずお付き合いいただきたい。よろしくお願いします。

それでは、本日の会議の案件は終了いたします。